ハッピーテラス通信

令和５年２月号

ハッピーテラスキッズ柏ルーム
04-7193-8205

新型コロナウイルスの感染が再拡大しています。
ハッピーテラスでは、引き続き感染対策に十分に努めて参ります。

１　お知らせ

※　「令和４年度第２１回みんなで楽しむニュースポーツ祭り」開催のお知らせ
開催日：令和５年２月１９日（日）１０：００～１１：３０
場所：柏市中央体育館
詳しくは、別添えのポスターをご覧ください。

※　柏市に在住されている方対象に、福祉サービスの3月末更新対象者に対し，
更新申請書類が発送されています。　４月に小学校に入学される年長のお子さまで，
児童発達支援から放課後等デイサービスへサービスへ移行される方については
３月更新時に「就学児サポート調査票」のご記入が必要となります。
記入をご希望の保護者様は、教室スタッフまでお知らせください。

２　<u>職員からの推薦図書</u>

題名　　「へんなところ」
著者名　　大森 裕子
参考価格　　1100円（Amazon）
推薦者　　田中剛(柏教室)

ヒット絵本「へんなかお」続編。今回はまちがいさがしです。へんなところ どーこだ、と動物たちを見ると…。もちろん、子どもたちを、びっくり&夢中にさせるミラーのしかけつきです。

３　<u>2月の追加ご利用可能日程</u>

（記号：〇・・・空きがございます　　△・・・若干名の空きがございます）

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
10:00															
11:15									△				△		
13:00						△			△				△		
15:00															
16:15															

日付	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
10:00													△
11:15													
13:00													△
15:00													
16:15													

４ 療育コラム 「お子様の興味・関心事に向き合ってみませんか？」

今回から数回に分けて、エリクソンの心理社会的発達理論について、ご紹介していきたいと思います。

始めに、心理社会的発達理論とは、エリク・ホーンブルガー・エリクソンという発達心理学者が提唱した、人間の一生を８つの発達段階に分け、それぞれの段階における、発達課題と、それを乗り越えるための障壁となる内容や、乗り越えられた時に獲得できる要素などを分類したものとなります。
この発達課題の事を、エリクソン先生は、心理社会的危機と定義しております。

それでは次に、それぞれの段階と心理社会的危機の名称、それぞれの期に差し掛かるおおよその年齢について、ご紹介していきます。

◆乳児期（生後）（0～17か月） 基本的信頼VS不信
◆幼児前期(18か月～3歳) 自立性VS恥
◆幼児後期(3歳～5歳) 自発性・積極性VS罪悪感
◆学童期(5歳～13歳) 勤勉性（完成）VS劣等感
◆青年期(13歳～20歳) アイデンティティVSアイデンティティの混乱
◆成人期(20歳～40歳) 親密性VS孤立
◆壮年期(40歳～65歳) 次世代育成能力VS停滞
◆老年期(65歳～) 自己統合VS絶望

と、このように8つの段階に分かれております。

今回は、上から2つ、幼児前期までのそれぞれの時期の説明と、心理社会的課題、そして、それを乗り越える事で、獲得できるものや、仮に適切に残り超えられなかった際にどうなってしまうのかについても、ご紹介していきたいと思います。

まず最初は、乳児期（生後）、心理社会的課題は【基本的信頼VS不信】です。
補足ですが、心理社会的課題はこのように相反する要素同士が対立しているイメージで示されます。
この時期の児童は、自分でできる事が限られています。
そのため、主に保護者や周囲の大人に愛情を持って世話をされることを通して、他者という存在に対して、基本的な信頼を形成していく時期となります。
そのため、心理社会的課題が適切に達成されると、他者への信頼感や生きていく事への希望が得られます。
一方で、この時期に泣く等の訴えをしても、養育者から適切な支援を受けられ無い事が続いた乳児は、周囲の他者への不安感や不信感が募り、時には自分に対しての無力感が形成されてしまいかねません。
こうなってしまうと、以後の人生にも多大な影響を及ぼしかねないと言えます。

続いて幼児前期です。
この時期になってくると、児童は周囲の人や物、環境と主体的に関われるようになってきます。そうした関わりを繰り返す中で、自我が芽生えてくる時期と言われています。
この時期の児童は、これまで周囲の他者の支援を受けて取り組んでいた事に関しても、自分一人でできるようになっていく事から、自分でやりたい！という想いが高まり、挑戦心や自立性が生まれてきます。
そのため、適切に挑戦する機会があると、様々な事に挑戦したい、という意思の獲得に繋がっていきます。
一方で、挑戦機会を適切に提供できなかったり、挑戦した結果、失敗してしまった際、周囲から否定されるなどしてしまうと、自立性が育まれないのみならず、周囲の他者に対しての、恥や疑惑が生まれてしまいかねません。

今回の心理社会的発達理論のお話はいかがでしたでしょうか？
次回は続きとなる幼児後期からお話をしていきたいと思います。

最後に、1つ告知をさせていただきたいと思います。
既にSMSや教室内掲示でも、ご共有させていただいておりますが、来る2月11日（土）の16時より、千葉エリアの保護者様を対象に、zoomにて私、髙阪が講演会をさせていただく事になりました。
題材は【社会生活能力検査】についてです。
【社会生活能力】と聞くと、対象が上の年齢なのでは、と感じられる方も多いようですが、それぞれの年齢で取り組めると良い事も数多くありますので、幼児から大人まで幅広く知っていただけると、今後のお子様の成長の一助となる内容であると思います。
現在、参加のご希望を募っておりますので、ご興味がおありの方がいらっしゃいましたら、是非とも、我孫子教室までご連絡いただき、お申込みいただけますと幸いです。

それでは、また次回のコラムでお会いしましょう。

5　おうちでキッズコーディネーション

平素より「おうちでキッズコーディネーション」をお楽しみいただきありがとうございます。

「おうちでコーディネーショントレーニング」の掲載につきまして、
今月号より連載を終了させていただくことになりました。

今までご愛読いただき、誠にありがとうございました。